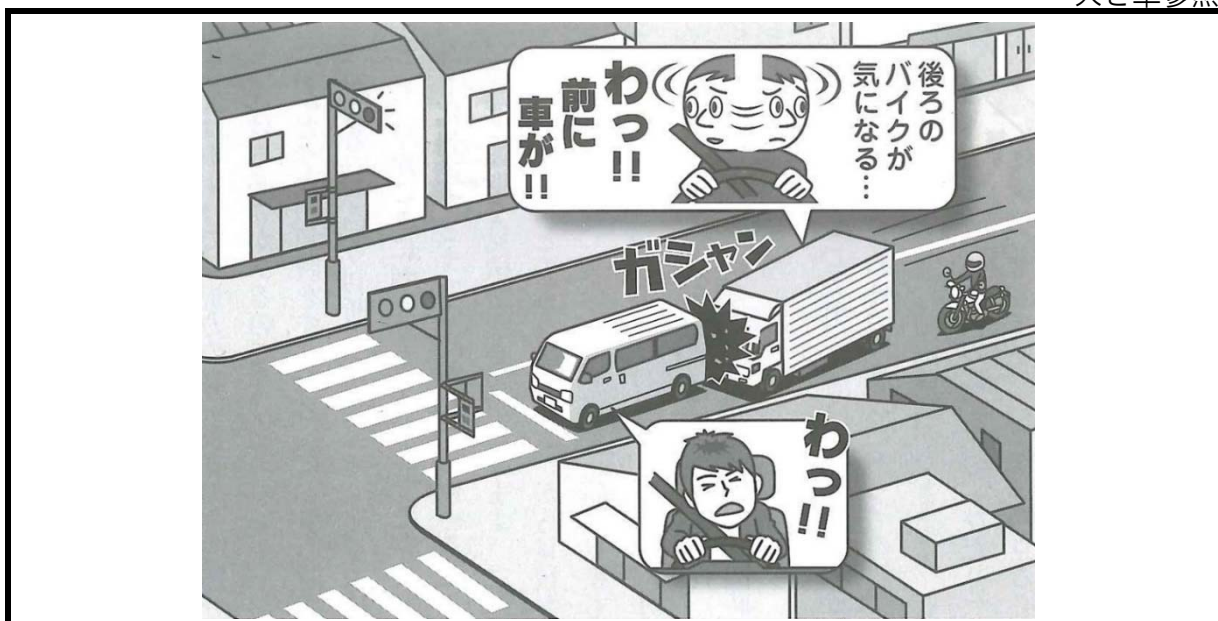


■事故の概況

人と車参照



事故類型：追突

当事者A：普通貨物車 40歳代 男性

当事者B：ワンボックス 20歳代 男性

■ 事故の概要

Aは、運送業務に従事している職業運転者で、いつものように制限速度内で走行する同僚のB車に追走しながら片側1車線の道路を走行していました。しばらくしてAは、バックミラーに映る二輪車の存在に気付き、見え隠れしながら追走してくる二輪車を危険ではないかとしきりに気にしていました。二輪車がバックミラーから見えなくなってふと視線を前に戻すとB車が信号で停止していて直前まで迫っていました。Aは、あわてて急ブレーキをかけ、ハンドルを左に切って回避しようとしたのですが間に合わずに追突してしまいました。追突されたB車は、赤信号で停止して数秒後には後ろでブレーキ音が生じ、その後激しい衝撃を受けました。

■ 事故から学ぶ

この事例のように流れに乗って一定速度で走行する場合には、運転中の刺激が少ないので、つい眠気を催したり、注意散漫になったりした経験は誰にもあるのではないのでしょうか。

流れに乗って定速で走行する安心感から生じる余裕から、多少の脇見等をしては大丈夫だろうと思いがちです。しかし、「多少の」はちっとも「多少の」ではなかったりします。

Aも後続する二輪車に必要以上に注意を向けてしまい、「前方を見る」ことがおろそかになっていました。